

会 議 録

会議名	第5回木更津市吾妻公園文化芸術施設整備検討委員会		
開催日	令和7年1月29日(水)	場 所	駅前庁舎7階 会議室
時 間	午前9時00分～午前10時30分		
出席者	委員：北野幸樹委員長、土田寛副委員長、吉武美由紀委員、青木健委員、 中原まどか委員、岩瀬弥生委員、渡辺則行委員、小高幸男委員 事務局：企画部 安田次長 地域政策室 鈴木室長、宮澤室次長、鴫田係長、桑田副主幹、鈴木主任主事 株式会社日建設計 土屋氏、甚内氏、大場氏、犬塚氏、渡辺氏、西田氏、 三宅氏（吾妻公園文化芸術施設基本設計等業務受託者）		
議 題	1 吾妻公園文化芸術施設基本設計（素案）について		
公開・非公開の別	議題1 公開		
傍聴者数	5人		
配付資料	○会議次第 ○資料1 吾妻公園文化芸術施設基本設計（素案）について		
会議概要	別紙のとおり		

【会議の概要】

○事務局（宮澤室次長）

本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

会議に先立ち、事務局からお知らせいたします。

記録のため、録音、写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。

なお、発言される際は、マイクのボタンを押した上でご発言いただき、終わりましたら再度オフに切り替えていただくようお願いいたします。

また、本日の会議は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例の規定により、公開となっております。ここで会議の傍聴を希望される方がおりますので、ご入室頂きます。本日の傍聴人は5名となっております。

【傍聴人入場】

まず始めに、配布資料の確認をさせていただきます。

次第の裏面に配付資料一覧を記載させていただいておりますので、足りないものがございましたらお申し出ください。

よろしいでしょうか。

それではただいまより、第5回木更津市吾妻公園文化芸術施設整備検討委員会を開催いたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます企画部地域政策室の宮澤でございます。よろしくお願いいたします。

ここで、会議の定足数についてご報告させていただきます。附属機関設置条例第6条第2項の規定によりまして、会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができないとなっておりますが、本日は10名中8名の委員に出席をいただいておりますので、委員会は成立することをご報告させていただきます。

それでは初めに、北野委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。

北野委員長、よろしくお願いいたします。

○北野委員長

みなさん、おはようございます。本日はお集まりいただき、ありがとうございます。

今回は5回目ということで、前回の委員会では様々なご意見、検討事項、それから懸案事項が洗い出されたというふうに感じております。これに対しまして、更にブラッシュアップをした、より実効性の高い基本設計におさめるにあたっての素案というのが、共有されるということでございます。前回に引き続きまして、みなさん市民に優しく寄り添えるよう、新しい公共空間像というものをつくりあげていきたいと思っておりますので、今回も忌憚のない意見をいただいて、また新たな次のステップに迎えればと思います。本日もよろしくお願いいたします。

○事務局（宮澤室次長）

ありがとうございます。それでは早速、議事に入りたいと思います。附属機関設置条例第6条第1項に、委員長が会議の議長となるとありますので、ここからの議事進行につきましては、北野委員長にお願いしたいと思います。北野委員長、よろしくお願いいたします。

○北野委員長

それでは早速ですが、議事に入らせていただきたいと思います。なお、発言される場合は挙手にてお願いいたします。

本日の議題は1件となっております。議題1、「吾妻公園文化芸術施設基本設計（素案）について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（鈴木室長）

議題1。「吾妻公園文化芸術施設基本設計（素案）について」、ご説明申し上げます。

吾妻公園文化芸術施設の基本設計につきましては、昨年10月に開催いたしました第4回検討委員会でご審議いただいたのち、12月市議会において、検討状況のご説明をさせていただいたところでございます。

その後、いただいたご意見等を踏まえ、様々な検討を行ってまいりましたが、近年は建設資材の価格や労務費の高騰が続いており、今後もこの傾向が継続する見込みとなっております。

市といたしましても、市民の皆様が利用しやすい施設とするため、いただいたご要望をなるべく取り入れていきたいと考える一方で、限られた予算を有効的に活用する必要があることから、「木更津飛行場周辺まちづくり実施計画（吾妻公園）」で示した概算事業費の金額を踏まえ、施設の延床面積や仕様の調整を行ってまいりました。

これからご審議いただく内容は、そういった見直しを行ったことによる現時点の素案となっております。基本設計の取りまとめに向け、調整を図る必要がある部分も多々ありますことから、本日はただご意見などを踏まえ、市民の方々に親しんでいただける、より良い施設の整備を目指し、今後も検討を重ねてまいりたいと考えております。

それでは、詳細につきましては、株式会社日建設計よりご説明させていただきます。

よろしく願いいたします。

○日建設計（土屋氏）

おはようございます。本日、私、土屋の方から文化芸術施設につきまして、後半は犬塚の方から公園につきまして、ご説明したいと思います。

【配布資料に基づき説明（日建設計（土屋氏、犬塚氏））】

○北野委員長

議題1につきましてご説明いただいたところでです。あわせて、みなさんの前に模型を置いていただいております。

それぞれみなさん、お考え、お感じのところだと思いますが、いかがでしょうか。

コストも含めたいろんな制約の中で、集約化する、できるところは空間を共用していく等、実現に近づけていこうというご提案が各所に見られているのだと思います。一般的な公共施設、例えば図書館・ホール・公民館での、俗にいう稼働率をざっと見てみますと、例えば東京23区では50%、地方・郊外・市では平均すると30%くらいが多いのではと思っています。それが老朽化してくると、さらに下がっていく。そういったことが先ほどの説明にもありましたが、50年後を見越した時に、どのように今この公共空間を作り上げていくのかはとても大事であって、先ほどのコンパクト化することによって、空間が重ね合わされる、利用が複数になることによって稼働率が上がる、まさしくそういったことも今回の木更津市さんの公共施設の在り方という意味でも、とても大事なことだなと個人的には感じています。それに向かって今回ご提案いただいたところは、とても魅力的なご提案になられているのだろうと思っています。

私から次回に向けての注文ではあるのですが、どうしても今の説明を聞いていると、いわゆるホール・図書館・公民館と外部の公園というものが別々に見えてしまうので、都市公園の中に新たな人の居場所をつくる時に、もう少し歩新しい公共像がないかなと思います。平面図の中で、園路側の北側から南側へ抜けていく新たな内部空間の道が作られていますが、外の緑道から内部の小道へ続くそういった連続的な空間が作られると、緑道を通る流れの中で気づいたら内部空間に至り、少し本を読んでいこうなど、色々な行為が誘発されることに繋がるかなと思っています。こういう作り方もあるし、もう少し公園との一体性などが表現できると、もっと素敵な居場所が作れると思います。

私からお願いしたいのは市民の方々にとって日常的でも優しい場所となる、要するに利用する目的を持ってこなくても、ひと手間デザインすることによって、自分の居場所を一人一人作ることができるといった施設にできたらいいかなと思います。ひいては、そういった偶発的に日常的に行けるような空間があれば稼働率も高まるし、出会いも深まるし、公共空間の在り方というものが、私達利用する側も責任をもって感じ取れる、さらに木更津市に暮らすという愛着を育める、そんな新しい公共像が

できるといいなと思っています。

○小高委員

先ほどの委員長からの稼働率の話がありましたが、現時点での状況をご説明させていただきます。中央公民館の1時間あたりの稼働でいえば、多目的ホールを除いた7つの会議室がある中で1番低いところで13%、高いところで31%、ただその日の1日で考えると1番低いところで49.5%、高いところで82%、平均で70%となります。おそらくホールについては、多目的に利用した場合、現在の木更津の中ホールの2月直近では利用が概ね55%、君津の市民文化ホールの大ホール88.3%、中ホール83%です。君津の施設は平成2年に建った施設ですが、80%を超える利用状況です。ホールであれば午前リハ、午後イベントなど、ほぼ一日使う状況ですし、楽屋の確保も必要、また前日の機材搬入等で使うこともあります。活用するという部分では稼働率を上げていくことはできるのですが、現実としてはいろんなイベントが重なってしまって使いたいのに使えないという非常に使いにくいイメージがでてくるという気がします。

吾妻のホールは商業ベースでいうと楽屋が3つで足りるのか、シャワールームも2つで足りるのか、木更津では歌舞伎の演目もある中で、そういったものをやっていきたいのであれば、楽屋には化粧台が必要であるし、裏方さんが入れる場所を確保しなければならないが、そういった時に会議室と楽屋と一緒に使えるのかどうかということもあって、そういった意味では非常に厳しいかなという気がしています。

コストの部分では、普通の家では四角いもので安く収まるイメージの中で、所々でこぼこしている部分をなぜ綺麗にしないのかとも思います。公民館・ホールの稼働状況からするとかなり厳しいかなという気はしています。

○日建設計（土屋氏）

ホールの商業利用の有無に関しては、いろんな施設が周りがある中で、700席程度、平土間利用可能という要望のもと、市民の方が気楽に使えるホールを目指しており、歌舞伎の方用のスペースを十分に確保するというよりむしろ、もう少し市民の利用しやすさを重視した方がいいのかなと考えています。

機能の重ね合わせに関しては、実はまだ様々な悩みがございます。すでに何度かヒアリングをさせていただいてはおりますが、もう一度ぜひ重ね合わせに関してご意見をいただきたいなと思っております。例えば、中会議室、壁際に調理用のカウンターを設けて調理室も兼ねていますが、会議だということであれば、簡単にカーテンのようなもので仕切ってしまって、多目的に使えるというご提案をしておりますが、そういったことでうまくご利用いただけそうか等もお聞きしたいと考えています。

また、和室をどこにするか悩んでいる中で、対面の読書のお部屋というものが、もし利用の都合上問題ないのであれば、和室と兼ねるようなあり方も検討する等、私たちも手探りでやっている面もかなりあります。まさにこれをベースにして、二つの機能、三つの機能を共存というのができるかというのは、ぜひこれからもご意見をお聞きしたいと思っています。

○土田副委員長

これについては、ホール自体を主体的にマネジメントしていくのは市だと考えています。市は発注者としてこのような使い方をしたい、という要望があり、それに対して実際に使用する市民の方々から意見を募るなどの流れなのかなと思っていました。市民ユースのほうに重きをおくならば、営利的な興業の誘致は難しくなりますし、それをどうするかは設計事務所では処理できない話だと思っています。まずは市が、今の中央公民館の、ホールの利活用が現状こうだ、それに対して、使いたいときに使えない等の市民のご意見を聴衆し、その後、ユーザーと文化活動と、市の懐具合といった様々な観点から、検討する必要があると思います。市のお考えをお聞かせください。

○鴫田係長

ホールの関係につきましては、メインは市民の方々に使っていただくホールを整備していきたい

というのは、市の考えとしてございます。令和2年6月に、中規模ホール整備基本計画を策定いたしました。これまでの市民会館の利用率ですとか、利用状況なども踏まえ、これからの木更津市にとってどういうホールが必要かを整理した中で、約700席として、市民の方々に使っていただくホールをまずは整備をしていくというのが市の基本的な考え方になります。今回のこの文化芸術施設に関しましても、まずは市民の方々に親しんでいただけるようなホールというところがメインになると考えております。

○岩瀬委員

説明では、エントランスが北と南から入れるというご提案だったのですが、木更津市民は車で行くと思います。車で、車いすのおばあちゃんと一緒に行っても、車いすを押しながら行ったとき、北も南も階段だったので、車いすでは行かれないとなると、どこから行ったらいいのかと思ったのが1点です。

また公園エントランス周りをお花できれいに、というお話は素敵だなと思いましたが、お花の世話は誰がするのかなど思いました。そのまま植えばなしでいいお花もあると思うのですが、美しく保とうと思うと、誰かの手入れが必要となるわけで、そのあたりはこのプロジェクトの予算に入っているのか、それともボランティアさんをお願いしてやっていただくのか気になりました。

あと、建物の話で、一面、真っ平らな壁じゃなくて、高低差を付けたデザインとおっしゃいましたが、その必要性が一市民として気になりました。

○日建設計（土屋氏）

まず、入口ですが、駐車場に車を止めていただいて、坂道ルートとエレベータールートと二つございます。まず坂道でいきますと、こちらから緩やかに上がっていただくのが一つのメインの動線になります。このスロープが今、1/20の緩やかな勾配にしておりますので、手押しでも十分対応できるだろうと考えてご提案をしております。

もちろん、遠いというご意見はあるかと思っておりますので、西側にエレベーターを配置しています。ですので、目の前の駐車場が空いていなくても、ここでいったん降ろしていただいて、運転される方は車を止めに行くなどでご対応いただければと思っております。

施設の下部分には十数台しかございませんので、ここに止めたいという時にどうするかというのは、私たちの中でもまだ検討を続けております。非常時的に縦列駐車する等、色々なアイデアを検討しておりますが、車が止めっぱなしになる景観上の懸念がある等の意見もいただいております。できれば、私たちはこちらの東側の坂道を上がるルートをお勧めはしたいのですが、早く建物に入りたい等ということであれば、エレベーターをもう1機増やすなど検討をすることもあります。駐車台数、エレベーターの台数、スロープの大変さ・勾配等いろんな要素が絡み合っているため、さらに検討の必要があると感じております。

○岩瀬委員

今、中央公民館を使われている利用者の方の年齢が高めではないかと思っており、現在の中央公民館が比較的駅の近くに位置していることから、これまで中央公民館に歩いて行っていた方が、今度、吾妻公園になると、バスなり車なりで行くと思っております。現在、国を挙げて高齢者は免許返納しようといっている中で、バスを利用して来たときに南側から入る際の階段はどうなるのでしょうか。スロープにさせていただく必要があると思っております。

○日建設計（土屋氏）

バス停からの動線は、西側をまわる緩やかなスロープで建物に導くようにしており、すり鉢状の広場の縁をゆっくり歩いていくようなイメージで作っています。どうしても緩い勾配とするため、回るようなイメージになってしまうこともあるかと思っております。

○日建設計（犬塚氏）

二つ目の花の管理についてのご意見につきましては、今どこの公園でも大きな課題でして、やはり

公園をきれいにするというのは公共整備の維持管理費でというのはなかなか厳しいという現実もあり、市民の皆さんや花を愛でるのが好きな方々に参加していただくなど、公園が自分のものと感じられるような経験をしていただくきっかけになってもらいたいという思いが非常にあります。

ただ、木更津市さんとそのやり方や維持管理の方法について具体的にお話ができているわけではなく、我々設計者として、車で来られる方々を歓迎する形のエントランスを作っていきたいというふうに考えております。

○土田副委員長

三点目については、恐らく前回の委員会の中で、市街地に対して東側の建物ボリュームが、園路側に出すぎているからもっと下げてほしいという話をしたので、対応いただいたのだと思います。確かに一見、無駄というところ、ご指摘のとおりだと思うのですが、木更津市さんの景観法に基づく景観計画というものを元に作られているのだと思います。

一般的には、その中で、特に大規模建築物については、町並みを乱す存在ということで、届出制度に代表される、景観についての行政指導を受ける対象です。景観デザインというものは一般的に、タワー型、高層になる場合は、アイレベルのデザインと中層のデザインと、仮にそこから飛び出してしまえば、頂部のデザインという3層構成を基本的には取りなさいと言われる。特に、アイレベルについては、町が持っているリズム、大きさになるべく合わせていくことによって、大規模感なるべく抑えるようにしています。大きな何も無い壁面では刑務所の壁のようになってしまう。

昨今の類似のホール施設もその傾向があり、先ほどの説明にあったように、ちょっと街のスケールを転写するような形で入れていただいたというところだと思います。ただ、模型を見る限り、あんまりその効果が見られない気もしています。この件については、私がお願いして対応していただいている流れがあるということだけ、ちょっと補足説明でした。

○北野委員長

具体的には、大きな壁面が垂直に立ち上がっている面っていうのは、もちろん、ヒューマンなスケールじゃないということと同時に、いろんな意味で人間には違和感があるなと思っています。それを何とか、反対側のまちのスケールを転写することで、スケールダウンさせて、かつ、それが無駄にデフォルメのスケールダウンではなくて、内部のアクティビティーが表にあらわれるような部屋をそこに並べてきたのだと思いますが、その形については土田先生がおっしゃったように、まだ悩まれているのだろうなというふうに伺えます。

ただ、斜めにも意味があって、僕の勝手な解釈ですけど、その内部空間が外部に表出するにあたっては、その見せ方として斜めのずれた空間が、うまいこと入っているんですね。どうせそこまでののであれば、外部の公園との関係性をうまく、もう少し整理できるのではと思っています。

まさしく、今、土田先生も、おっしゃっていましたが、そこまでカタチにできれば、都市公園としての公共施設の在り方っていうのが明確になるかなっていうように感じました。

○中原委員

すごく素敵なホールで、わくわくするなって見て思っていたのですが、先ほどから市民、市民という言葉が聞こえてくるので、市民として言わせていただきます。

50年後を見据えてというお話を伺って、長い年月を見なくちゃいけないのだなと思ったのですが、そうすると、近々の10年を思った時に、今はまだ私たちの世代が多いと思うのですが、この10年、まだまだ多くの方が車を使うと思います。色々考えていただいた上での建物下の駐車場だとは思いますが、やはりすごく少ないなと思いました。あと10年は車の世代がまだまだ続くのではないかなと思ったところです。

また、吾妻神社の所に入出口がくるとなると、もしかしたら吾妻神社側の細い道からも人が入ってくることを想像すると、公園が駐車場への道で分断されてしまい、メインの駐車場でもあるため、車の往来が多く、歩行者にとって怖いのではないかという印象を受けました。また運転者目線でも、ゲートも何もないので、両脇の歩行者がすごく怖いなと思いました。

あと、もう一つ、図書館で言うと、外に出ていけるのはすごくうれしいと思ったのですが、全体的

なセキュリティをどのように考えればいいのか気になりました。テラス等に出ているのは、とてもうれしい、すごく私も出ていきたいし、本を外で読みたいというのがありますが、その本のセキュリティのチェックの仕方が気になります。これからの調整かと思いますが、ゲートをいっぱい置くようになるのでしょうか。

また、袖ヶ浦方面からくる際のバス停はこれからどういう整備をしていくのかも気になります。それはきっと市にお答えいただくことかとは思いますが、どういう想定をするのかをお聞きしたいなと思いました。

○日建設計（犬塚氏）

まず、公園メインエントランス部での横断の問題ですが、現況の信号が県道と吾妻神社側からくる市道の信号処理をしており、恐らく本信号を引き続き使用するため、外から公園内に入る車両の進入をコントロールすることになると考えております。

また公園内部での進入路部分につきましては、まだアイデアレベルのため、そのとおりになるか分かりませんが、例えば舗装の形態を変えるなどで、車を運転される方に注意喚起するといった形で処理をしていく必要があると思っております。

○土田副委員長

今のコメントに相乗りさせてもらおうと、もともと丁字路だったのが十字路になるということで、こちらは切り開きではなく切り下げ対応では難しいのでしょうか。都内で2、3件のみですが、事例はあります。つまり交渉次第では切り下げ対応の余地があるのではないかと思います。

切り開きにしてしまうと歩道と車道に高低差が出てくる複断面になってしまい、南北方向の歩行者の動線との関係性が、いわゆる一般の道路と同じ状況になってしまいます。したがって、園内の移動円滑化という意味でいけば、できれば切り下げにし、単断面もしくは単一舗装にすることで、車が遠慮して走らなければならないような空間にしたほうが歩行者にとって良いと思えました。

○日建設計（犬塚氏）

交通管理者の意見もあるため、設計者だけでは判断できないところがあります。ただ、現在検討している位置を出入口とした理由としては、右折して入ってくる車もいることを想定しているためです。本来、交差点に出入口を設けるのは、基本的には許可されません。しかし今回は公園という公共施設であることから、交渉の場に出ていけているという状況でございます。ですから、北から来る車に対して、今の中央分離帯部分に右折レーンしっかりと設けて、渋滞が起きないように配慮することで、車を利用される方にとっては望ましい位置ではないかと思っております。ですが、安全対策については、土田先生におっしゃっていただいたように様々なやり方がございますので、今後詰めてまいりたいと思っております。

○鴫田係長

三点目の袖ヶ浦方面からの動線については、公園の反対側にはなってしまいますが、既存のバス停がございますので、そちらで降り、中央部分の横断歩道を渡っていただき、公園に入っていく形になると考えております。また、車で来られる方には、県道に新たに右折レーンを設けていきますので、そちらから園内に入っていくことを想定しております。

○日建設計（土屋氏）

図書館の入り口については、こちらがホール、こちらが図書館というように分けず、全体が図書館、公民館、ホールと考えますので、各入口でセンサーをつける対応になると思います。

盗難されるなど、いろいろなご懸念はあると思いますが、他の施設も事例も踏まえ検討していきたいと思っております。

○北野委員長

そのあたりはこれからの運用も含めて検討を進めていかなければいけないと思っております。また駐車

場に関しても、合わせて検討していく必要があると認識しています。

その他に、何かございますでしょうか。

次回に向けての検討事項として、今回委員にご発言いただいた内容を詰めていく形で、より現実度の高いものにして進めていければと思います。

○土田副委員長

見えない所にお金をかけないというキーワードについて、例えば耐震性とか免震などは見えませんが、防災拠点としてはそういった所にこそお金をかけるということもあるのではないかと思います。軟弱地盤でもあるし、トータルコストも踏まえての検討が必要だと思います。公園と建築の防災性のところにかかるコストが重要となりますので。

あとは、先ほど北野先生がおっしゃっていただいておりますが、僕としても公園の中の建築としてどういう振る舞いをするのが、とてもこのプロジェクトのポイントだと思っているので、ぜひそこもご検討いただければと思います。

○北野委員長

防災性というのは、もちろん一番大事なことです。見えない所にこそ力を入れ込んで作っていただきたいなというところです。

繰り返しになりますけども、木更津は、都市公園として緑と海の青と空の青と、そこに爽やかな風が吹くという、とても素敵な環境の中での公園の位置付けですので、新たな公共像として新しい公園の位置付けというものが、全国に先駆けて提案されるように、是非取り組んでいただきたいと思います。この委員の皆さまで、そのための提案を是非していきたいなと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。

また次回に向けて進めていただければと思います。それでは、本日の議事はこれで終了とさせていただきます。皆さまのご協力に感謝いたします。どうもありがとうございました。

○事務局（宮澤室次長）

北野委員長、ありがとうございました。

委員の皆様におかれましては、長時間のご質疑ありがとうございました。

最後に、基本設計に関する今後のスケジュールについて、ご報告させていただきます。

まず、オープンハウス型説明会についてでございます。オープンハウス型とは、会場にパネル等を展示し、訪れた方からの質問等にお答えする形式の説明会でございます。2月1日に開催いたします。当日は、午前中に図書館、午後に中央公民館を会場として実施いたします。この説明会は、開催時間中の出入りが自由となっておりますので、各施設の利用者の方々を中心に、ご意見を伺ってまいりたいと考えております。

次に、住民説明会についてでございます。2月16日に中央公民館を会場として、18日にはオンラインにて、それぞれ実施する予定でございます。

その後、いただいたご意見を踏まえ、所要の調整を行い、最終的に3月頃に第6回の検討委員会を開催し、基本設計（案）についてご審議いただく予定でございます。

詳細な日程につきましては、あらためてご連絡させていただきますので、よろしくお願いたします。

それでは、以上をもちまして、「第5回木更津市吾妻公園文化芸術施設整備検討委員会」を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。

第5回吾妻公園文化芸術施設整備検討委員会の内容について、上記のとおり確認する。

令和7年2月28日

木更津市吾妻公園文化芸術施設整備検討委員会委員長 北野 幸樹